

特色ある学校づくり

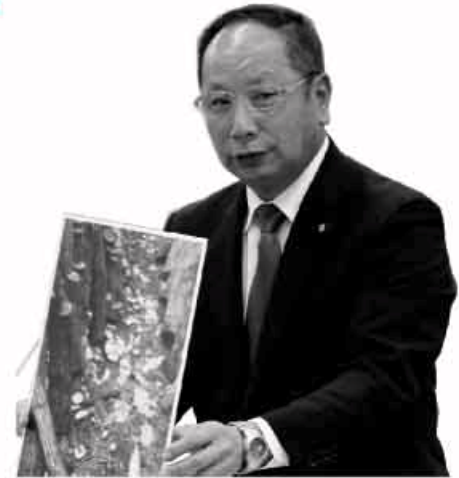
～今後も学校や地域の特性を生かした教育活動を展開～

質

市内の小・中学校による特色ある学校づくりの今後の取り組みは、

答 教育長
ふるさと学習、小・中連携、食育、学力、体力の向上を生かした授業改善や※ジオサイト、郷土の歴史や文化、産業、自然等に学ぶふるさと学習を、それぞれの学校が地域の素材や人材を活用し、ふるさとを愛し、たくましく生きる力の育成に取り組んでいます。

今後も子どもたちの力の向上と、学校を核にした地域コミュニティの活性化を目指します。



しょうのてるお
生野照雄

清風クラブ

どうなるふるさと納税

～返礼品をリニューアル～

質

ふるさと納税の現状と課題は、

答 市長

寄附の件数は徐々に増加しています。大半が本市出身者もしくは本市に思い入れのある方からの寄附であると考えます。

自主財源の確保と産業振興を目的に、平成28年度の主要事業として、ふるさと応援寄附金推進事業を掲げ、4月より返礼品のグレードアップを計画しています。

どうする猿の食害対策

～被害最小限に抑えるため、関係機関と連携図る～

質

三重・清川の南部地域の椎茸が猿の被害にあっている。人工ほだ場かハウスが効果あるが、その補助事業は増産計画を立てなければならず、生産者の高齢化が進む中、対応が難しいが。

答 農林整備課長

今年になって被害が増えています。椎茸のほだ場では、人による追い払い等に頼っているのが現状で、電気柵と遮光ネットを設置した林内ほだ場、試験的に猿の群れを捕獲できる罠いワナを設置し経過観察中です。

猿の対応も含めてパトロール時期等検討し、効果的な被害防止対策を行います。



猿の被害にあったほだ場

ジオサイト=珍しい眺め、珍しいものを見て学ぶことができる場所のこと。また、珍しい眺め・珍しいものがどうしてできたのか、その成り立ちがわかる場所でもある。



藤 竜 哉

市民クラブ

豊後大野ジオパークの認定を受けて、3年が過ぎようとしています。平成29年には再認定の審査があるようです。

日本ジオパーク組織

委員会から認定をいただいた時、改善指摘事項があった。再認定に向け、どのくらい指摘事項の改善が進んでいるのか。

質

大丈夫か？ ジオの再認定

市民と関係機関と共に改善に努める

答
市長

今後の課題、改善すべき点として6点が挙げられました。①受け入れ態勢の整備、②拠点施設について、③ジオパークを活用した具体的な町おこしについて、④ジオパークガイドの養成、⑤安全管理、⑥防災教育についてです。

具体的にガイドブック作成が指摘され、これから整備することとなります。ジオガイドは、実践を通してレベルアップに努めています。

どげえなっちよる、学校林は

～現地確認を含め維持管理が困難である～

質

市内の学校18校（小学11校・中学7校）の過去の時代から学校林が存在し、児童生徒、保護者や地域の住民も下刈り作業等に汗を流し管理されてきたものと思う。現状は場所が定かでない、存在すら知らないなど、早急な対応策を協議する必要があると考えるが。

答
教育長

学校統廃合や教職員の異動の際、現地確認を含め適切な引き継ぎがなされてこなかったこともあり、将来にわたって学校単位で学校林の維持管理は困難であると考えます。

保護者をはじめ、地域の方々の想いを参酌すると何らかの対応策を検討する必要があります。教育委員会として、市有財産として包括的で効率的な管理方針がないか、関係部署と協議を進めていきます。



市内の学校林